

犢橋(こてはし)貝塚付近を歩く

千葉市の遺跡を歩く会

1. こてはし貝塚(縄文後期) P 3 参照

- 南北 180m、東西 160mの大型貝塚。標高 22~29m。
- 埋め立て前の海岸線から 4~5km 花見川を上った地点にある。縄文後期/晩期の海岸線は国道 14 号線付近にあったと考えられる。
- 貝層はオキアサリ、イボキサゴが主体。ヤマトシジミもあり、印旛沼水系との関連が想像される。
- 貝塚はC字型を呈しており、開口部は谷に繋がっている。開口部よりもその内側が低くなっており、先導谷に近い地形を示している。貝塚がどのようにして造られたか、縄文人がどのように暮らしていたか、想像させてくれる貝塚の姿。
- 1950~60年代に集落馬蹄形説が唱えられ、明治大学、千葉大学によって調査が行われたが、貝層近辺には住居が見つからず、精密な測量図を残すに留まった。さつきが丘団地建設時に、貝塚周辺に住居の存在が確認されたが、詳細な報告書を作成することもなく、掘削または土中に埋蔵された。

2. 落合遺跡(縄文後期) P 5 参照

3隻の丸木舟と舟をこぐカイ6本が出土した(C14分析で約2500年前)。隣接する台地上の中谷(なかやつ)遺跡で縄文後期加曽利B式土器が発掘され、関連が考えられる。

戦時中及び終戦直後、東大検見川グランドで代用燃料として泥炭が採掘されていた。泥炭はドコを含まず、草が一部炭化しているもの。乾燥して燃料にする。

1947年、泥炭採掘作業中に丸木舟が出土。遺跡であることが認められた。現在、落合遺跡で出土した丸木舟は東京・小金井公園にある武蔵野郷土館で保管されている。

3. 鶴牧遺跡(縄文早期) P 5 参照

- 台地上の点在貝塚。標高約 20m。
- 住居跡、炉穴の存在が確認されている。
- 落合遺跡におけるハスの実発掘調査時に遺跡であることが確認され、1952年に調査された。
- 千葉市西端の遺跡であり、縄文人が食料や道具の資源を得るための森(アグリ・フォレスト)の文明を考える上で、中谷遺跡(縄文後期)とともに重要な遺跡である。

4. 大賀ハス(おおがはす)

- 古代ハスの研究を行っていた大賀博士は、1947年に検見川・落合遺跡で丸木舟が発掘された際にハスの果托が発掘されていたことを知り、ハスの実が出土するはずとの信念を持ち、1951/3/3から土建会社と地元の協力(畑小学校、花園中学校、一般市民のボランティア)を得て落合遺跡の発掘を行った。
- 1951/3/30に1粒、4/6に2粒のハスの実が出土した。

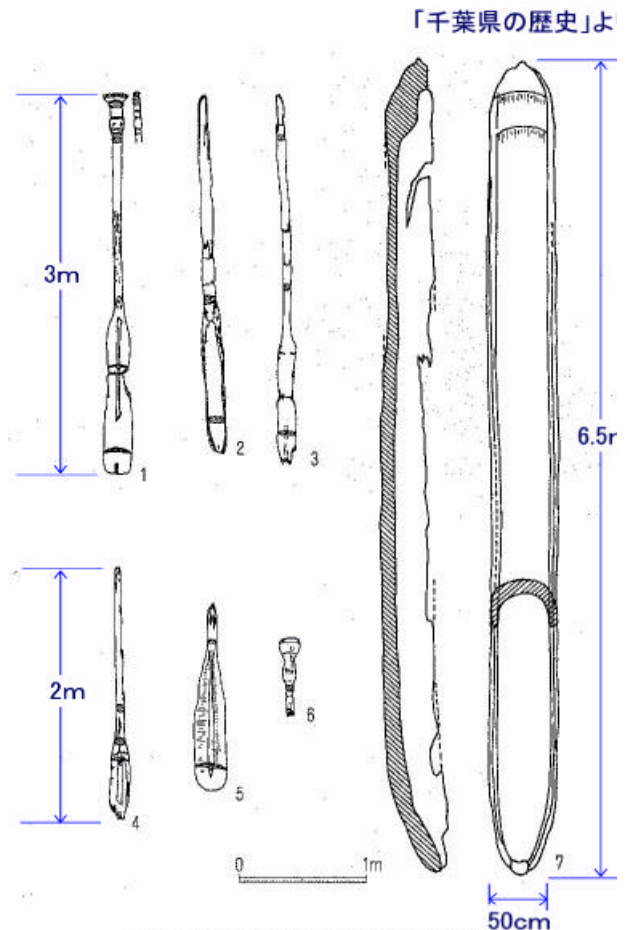


図2 落合遺跡出土の丸木舟および櫂 (1/50)

- 5月上旬から発芽育成試験を開始。3粒を発芽させることに成功。育成は3/30出土品だけが成功した。これを千葉県農業試験場、千葉公園、地元市民宅に根分けをして成長させた。
- 畑町伊原氏宅の大賀ハスは1952/7/7に最初のつぼみ、7/14に第2のつぼみがつき、7/18早朝に開花した。2000年の眠りから覚めた淡紅色の花だった。
- 大賀ハスの蓮根は国内はもとよりドイツ、アメリカ、中国などに送られ、「古代ハス」として鑑賞されている。

5. 花見川

- 利根川東遷：家康が江戸に幕府を開いた時は利根川の流路は現在の江戸川であり、東京湾に注いでいた。
利根川による洪水が深刻であるため、常陸川～小貝川、鬼怒川水系をつなぎ、銚子から太平洋に流れ込む流路に変更する大治水工事を行った。
- 印旛沼の洪水：その結果、利根川は印旛沼に注ぎ、頻繁に洪水が起こるようになった。
- 享保の工事：1724年、新田開拓を名目に印旛沼の水の花見川への放水を平戸村の名主が計画。幕府が援助したが資金枯渇のため中止。当時の花見川の水源地は横戸村付近。
- 天明の工事：掘削が行われ、天明には図誌(地図)に描かれるようになったが、田沼意次の失脚により中止。
- 天保の工事：洪水防止のみならず、物流交通路として江戸 検見川 花見川 印旛沼 水郷 銚子 に中型船を通す経済改革が計画されたが、水野忠邦の失脚により中止。高瀬舟が通れる流路にはなった。
- 江戸時代末は、自主流通米、年貢米、サツマイモ、肥料などの運送に活用され、花見川沿岸の村は活気を帯びた。
- 掘削工事は昭和になって完成した。

6. 周辺地域の地名

(千葉県畑コミュニティセンター発行「畑地区コミュニティセンター周辺の散策」参照)

- ◇ さつきが丘 (さつきがおか)
1972年、新検見川 土地区画整理事業により、畑町と犢橋町の1部をさつきが丘とする。当初完成計画が1972年6月だったことによりこの名がついた。
- ◇ 畑町 (はたまち)
1193年の子安神社棟札に畑村が銘記されている。行軍の際の「旗」が地名になったか、関東地方に産業を興すために帰化人が繊維工業をこの地で始めたことから「はたおり」の「はた」が地名となったと考えられる。
- ◇ 検見川町 (けみがわちょう)
「千葉盛衰記」に1180年に花見川にちなんで、華見川村と呼ばれたと記されている。1538年作と思われる「小弓御所様討軍物語」には「けき川」と書かれている。
- ◇ 花園町 (はなぞのちょう) 浪花町 (なにわちょう)
1936年町名改正時に検見川町より分離独立してできた町名。小字などにこの地名は見られず、町名改正時にできた地名。
- ◇ 朝日ヶ丘町 (あさひがおかまち)
1936年の町名改正時に検見川町と畑町の一部が分離合同してできた地名。
- ◇ 宮野木町 (みやのぎちょう)
江戸時代初期に宮野木村の地名が見られる。
- ◇ 天戸町 (あまどちょう)
江戸時代中期の文献に天戸村の地名が現れる。川渡しがあった地名と思われる。
- ◇ 長作町 (ながさくちょう)
平安時代に葛飾郡三山庄長作郷として知られる。
- ◇ 犢橋町 (こてはしちょう)
不明

おわり